

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

1 トラストルピア 産業情報研修室 <令和7年10月5日(日)開催>

① 青梅信用金庫増戸支店前の歩道について

Q 青梅信用金庫前の歩道が狭く、通行中の子どもが車にひかれそうになってしまう状況を見ることがある。事故も見てきた。大変危険である。道を広げることは難しいと承知しているが、何か対策をしてほしい。これまで議員や自治会長が市に要望をしている。

また、道路の反対（ファインプラザ）側にシルバー人材センターの見守りの方が立っているが、危険なのは、青梅信用金庫側なので、立ち位置も検討してほしい。

A 同地域（地点）の状況については、市でも把握しており、課題と認識しているが、道路の拡幅については、地権者の同意が必須となる。道路の拡幅は難しいが、対策は考えていきたい。見守りの現状を確認する。

② 夏休みのプール開放について

Q 夏休み期間に東秋留小学校のプールが解放されていないため、夏休みになるたびにプール教室に通わせている。子どもたちが、学童クラブとプール教室間の移動にチョイソコを使えたら便利だと思う。高齢者中心の事業であるとは思うが、子どもたちが利用する方法はあるか。

A チョイソコは、利用に際しての年齢要件はなく、公共交通空白地域の住民を支援することを目的とし、決められたエリアを運行している公共交通である。運行エリア内であれば、移動手段としてお子さんも利用することができる。

Q 夏休みにプールをやっている小学校はあるのか。

A 今年の夏は、気温の上昇や暑さを考慮し、プール指導を中止とした件数が多くかった。対策が必要と考えている。外部施設の利用については、前田小学校と一の谷小学校で実証実験を行っている。

Q 予算的に設備の改善は見込めないのでないのではないか。地域の協力を得ながら夏休みの市民プールの活用方法について積極的に検討・実施していく方が現実的ではないかと考える。

A 夏休みのプール開放については検討中である。他自治体では、学校にプールをつくらず、外部施設を活用する例もあるが、あきる野市は広いため、施設間の移動が難しい。この規模の自治体で、温水プールが3つある市は珍しく、維持管理は大きな負担となっている。将来的に改修や建替えが必要だが、子どもたちが通えるのかという問題もある。総合的に検討していく。

③ 図書館のカラーコピー機について

Q 新聞のカラーページをコピーしたい時があるが、図書館にカラーコピー機がない。他の自治体の状況を見ると、日の出町では図書館でカラーコピーができるようである。

A カラーコピーは単価が高いため、コピーをする枚数によっては、新聞を購入するより高くなってしまうこともある。カラーコピー機の設置については、そういったことも踏まえての検討が必要である。

④ 林業の課題について

Q あきる野市の魅力は自然の豊かさと農林業にある。林業では長期的な山の保全が必要だが、市の取組はあまり聞かない。また、人材不足も課題である。市長として、林業の課題にどう向き合い、市民参加をどのように促していく考え方伺いたい。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

A 高い技術を求められること、危険な作業を伴うこともあり、人材が育ちにくい状況があるなど、林業の担い手不足は深刻であると認識している。そのような中でも、檜原村は若い世代の活躍もあり、比較的人材が多く、また、都心部からも林業への従事を希望して来ている人がいるという。あきる野市でも山林の整備を進めているが、管理者や技術者が足りていない現状があり、人材不足を解決していかなくてはいけないと思っている。山の保全に関する市民参加の例として、五日市高校の生徒が山での活動を行っていると把握している。そのような活動を市としても検討していきたい。

⑤ 駐車場整備について

Q 観光客が増えているが、車の交通量が増え、駐車場が不足している。市として駐車場の整備をやってほしい。また、JAの広い駐車場が空いているため、うまく活用できるのではないかどうか。

A 魅力的なお店があるものの駐車場がなく、観光客が通り過ぎてしまうことが問題だと認識している。市が土地を買い取って整備するには費用がかかるため、難しい状況である。市議会でも、空いているスペースを積極的に使うべきであるという意見も挙がっている。この他、東横インに観光バスが停められるスペースがないという課題もある。具体的な解決案はまだ出でていませんが、駐車場の確保は課題として認識している。

⑥ 秋川高校跡地の活用と企業誘致、道の駅について

Q 秋川高校跡地について、以前あきる野市に道の駅をつくる構想があったと思うが、観光と組み合わせて企業誘致を進めたら面白いのではないか。あきる野市は車のアクセスも良く、拠点としての可能性がある。例えば、企業のオフィスを多摩産材を活用したものにすることで企業のPRにもつながるし、あきる野らしさを生かしながら、住民や観光客にもメリットのある活用ができるのではないか。

A 秋川高校跡地は、立地、地盤、地価などの面でも優れており、産業系企業を誘致する方向で都と調整を進めている。市だけでの整備は難しいため、民間企業との連携や、メタセコイアをどう生かすのかということも含め、市民の声も聞きながら進めたいと思う。

⑦ 東秋留駅の駐輪場の混雑について

Q 東秋留駅では、るのバスの折り返し場の整備のために駐輪場が縮小されている。その影響で、朝は整理されているものの、夜になると大量の自転車が通路を塞ぐほどに停められており、非常に混雑している。駐輪場の状況は今後もこのままであるか。

A 駐輪場を新たに整備する予定はないが、他自治体のように、有料化することで状況を改善する方法もあると思う。市として、新たな対応策を考えていきたい。駐輪場の件は、市議会でも課題として挙げられている。より多くの台数が止められるような整備の仕方を考えたい。

⑧ 転入により自動車の運転や免許取得が必要となった人への補助について

Q あきる野市に転入して、これまでペーパードライバーだった人や、新たに運転免許が必要になった人のための補助や案内などの対応はあるか。

A 消防団員に対し、運転免許を取るための補助はしているが、一般市民のための補助は実施していない。費用の面や、市内を走るバスの利用者数などを考えると、自動車の運転に関する補助制度を設けるのは難しい。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

⑨ 野焼きについて

Q 臭い移りなどが気になり、外に洗濯物が干しにくくなっている。市として、野焼きをしてよい指定日を決めてほしい。

A 基本的には、野焼きはしないでいただきたいとお願いしているが、強制はしていない。天候も影響するため指定は難しいが、ご近所の方が洗濯物を干す際に、臭い移りなどで困っているので、配慮いただきたいとお願いはできる。対応について検討していきたいと思う。

⑩ クマの出没と市の対応について

Q 自然豊かなエリアに行くことをためらってしまう。クマが出没したときに対策はしているのか。

A 猿友会と連携し、クマが出没した場所を確認している。予防策としては、庭に果樹を植えるとクマに狙われやすいため、クマの餌になるような植物を育てるのは遠慮いただくよう声かけをしたり、火薬の匂いなどを用いてクマを牽制するなど、クマが出没しやすい状況を改善する対応をしている。

⑪ 障がい児・医療的ケア児を持つ家庭への支援等について

Q 1点目、医療的ケア児を取り巻く事件が続く中、在宅レスパイトサービスの導入を希望。親が仮眠を取ったり外出したりする時間が必要である。

2点目、医療的ケア児の預かり保育は3時間程度が限界で、親としては仕事復帰が難しい。市内では五日市保育園で受け入れをしてもらえたが、自宅から遠いため、車での送迎時の安全面が心配。市はどうに考へるか。

3点目、以前あった障がい児専用の遊び場が閉鎖されたことを残念に思う。医療的ケア児や障がい児が遊び場について、市にも考えてほしい。

4点目、秋川高校跡地の活用について、市の財政が潤うことはありがたいと思う。しかし、特別支援学校や診療所に隣接しているので、障がい児者の通学や通院の妨げにならないよう配慮してほしい。

A 在宅レスパイトについて、現在取り組めていないので、調べて検討したい。

保育所での受け入れについて、五日市地区だけでなく秋川地区での受け入れについても必要性を認識している。設備や人員配置など調整が必要であるが、市としても検討はしているので、ご理解いただきたい。

障がい児の遊び場について、まだ具体的な方策は出せていないが、色々な方が安心して集えるような場所を作れたら良いと思っている。

秋川高校跡地の活用に当たっては、通学や通院をされる皆さんに迷惑がかからないように配慮する。

⑫ タウンミーティングについて

Q 参加者の皆さんのが生活している中で、課題に感じていることやそれぞれの思いがあると伝わってきた。このような場所は大切であると思うため、タウンミーティングのテーマを決めて、これからもこまめに開催して、市民の意見を集約していただきたい。

A 意見として承る。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

⑬ あきる野市の魅力発信について

Q あきる野市の魅力を市が積極的に紹介する取組をお願いしたい。例えば、「市を見てみませんか」という企画で、サマーランドの帰りに30分から1時間ほどマイクロバスで市内を巡るようなツアーがあると良いのではないか。都心に住む方に「あきる野市に来てほしい」と伝えても、「あきる野市ってどこ?」と聞かれることが多いため、情報発信をもっと強化していくことが大切だと思う。

A 宣伝はしているが、皆さんのが所に届いていないことがある。都心の方々にも、あきる野市を知ってもらえるよう、有楽町にある移住相談ブースでの積極的なPRに力を入れている。市の取組をテレビ番組に取り上げられた実績もあるため、引き続き頑張ってPRしていきたい。

⑭ 留原自治会館のAED設置について

Q 公共施設のAED設置状況について、ほぼくまなく設置していただいているとのことだが、AEDの耐用期間が過ぎた後、新たなものを設置をしないという判断がされた場所もあり、留原自治会館には設置されていない。AEDが設置されている最寄りの自治会館からは500m以上離れている。新たに設置するときの補助について考えをお聞きしたい。

A 一部のAEDの耐用期間が過ぎてしまったこと、買い替えの費用が高いため、地域の皆さんから補助を求める声があることを把握している。緊急時の命に関わることであるため、検討したい。